

## 平成 21 年度第 3 回富山県環境審議会水環境専門部会 議事録

### 1 日時

平成 21 年 11 月 24 日（火） 9 時～12 時

### 2 場所

富山県民会館 702 号室

### 3 出席者

委員：安田専門部会長、小池特別委員（代理：宮島富山河川国道事務所河川環境課長）、  
楠井専門員、木幡専門員、田口専門員、千葉専門員、陶野専門員  
事務局：堀生活環境文化部次長、浦田環境保全課長 他

### 4 内容

議事

小矢部川水域等に係る環境基準の水域類型の指定の見直しについて

### 5 主な意見、質疑応答

#### (1) 前回ご意見に対する対応について

意見、質疑なし

#### (2) 仏生寺川、内川及び新堀川の水域類型について

[専門員]

具体的な考え方の「年間の BOD 測定値の 10/12 以上」の「10/12」には、何か根拠があるのか。

[事務局]

年間の BOD 達成状況を評価する 75% 値が「9/12」に当たるので、1 つ安全側を見て「10/12」とした。

[専門員]

利用目的に変化はないが、水域類型を上位に見直していく根拠は何か。

[事務局]

基本的には、現在の良好な水質を守るという現状非悪化のために見直すこととしている。その他、水質環境計画（クリーンウォーター計画）に掲げる「河川は B 類型以上」という目標を達成するためにも上位に見直したい。

[専門員]

特に、規制が厳しくなるものではないので、問題にはならないと思われる。類型をどこまで上げるのか、親水的利用に具体的にどのように配慮するのか、報告書により具体的に記載した方が説明しやすいのではないかと。

また、月別の水質データのグラフから水質の傾向がとらえられるので、こういったものを踏まえて、今はまだ上位類型に見直せない河川についても「河川は B 類型以上」を達成するためには、報告書とは別に、今後どういう点が重要であるかというコメントを記載したものがあるとよいと考える。

[事務局]

すぐに用意するのは難しいが、今後の課題として、B 類型以上に見直せるように、現状の解析と評価並びに施策の評価をしっかりと行ってまいりたい。

また、親水的利用については、水に直接触れるような利用があればA類型に相当すると見なすなど、元々の利用目的に準じた評価をしてみたい。

[専門員]

新堀川では冬に水質が悪い傾向がみられるが、この付近では、消雪のために地下水を汲み上げて、地表面を流れた汚れた水が川に流入しているのではないかと考える。

[事務局]

手元に地下水の利用状況のデータがないので推測であるが、水質のデータに高い値がある平成18年は、降雪量が非常に多い年だったので、そのような状況も考えられる。今後、地下水の揚水データも踏まえて、地表面の汚れが河川に流入しているのかどうかということも研究してみたい。

[専門員]

新堀川の溶存酸素量(DO)が、大きく下がる要因は何か。

[事務局]

感潮域にあるほか、流れが停滞傾向にあることや水温が比較的高い農業排水が流入していることも要因の一つではないかと考える。

[専門員]

河川の底泥が汚れていることも要因として考えられる。

○ 仏生寺川及び内川の達成期間の見直しについては、事務局案のとおり了承された。

### (3) 下条川の水域類型の見直しについて

[専門員]

将来水質の予測で、公共下水道の終末処理施設が廃止され、流域下水道に接続されるということはあるのか。

[事務局]

流域下水道に接続されるという情報は把握していない。生活系の排出負荷量の減少は、今後、単独処理浄化槽人口や汲み取り人口が減少し、下水道人口や農業集落排水処理人口が増加していくもとの予測されたものである。

[専門員]

この下条川と先ほどの新堀川は、位置が近く、流況が似ている。新堀川に比べて、下条川では夏にDOが低下する程度が少ないのは、メカニズム的に違うのか。下条川が、新堀川のように悪化することは考えられないか。

[事務局]

2つの河川は、非常によく似たタイプの河川である。DOの低下の程度の違いについては、環境基準点の設定位置等が違うなど、状況が異なるところにある。下条川は、新堀川よりも親水的な利用が進んでいること、見直しの条件を全てクリアしていることなどから、類型を見直すこととしたい。また、水質が特に悪化するような要因は確認されていない。

○ 下条川の水域類型の見直しについては、事務局案のとおり了承された。

### (4) 小矢部川の水域類型の見直しについて

[専門員]

小矢部川下流(甲)で産業系の排出負荷量が増加する予測となっているが、何か理由があるのか。

[事務局]

産業系の排出負荷量は、事業場を対象に行った排水に関するアンケートの結果に基づいて予測している。設備の増設等の計画がある事業場からは、排水量の増加など排出負荷量が増加する回答が得られている。

[専門員]

河口の中央、左岸、右岸は、具体的にはどこなのか。川岸に近いところで採水しているのか。

[事務局]

「如意の渡し」があった辺りである。川幅が広いので、中央は流心、左岸及び右岸は流心と川岸との間で採水している。

[専門員]

例えば、大きな船が通る場合、かなり水が攪拌されると考えられるが、その影響は考慮されているのか。

[事務局]

一時的な船の運航の影響を受けないように採水している。

[専門員]

資料 3-5 の 19 ページに示された排出負荷量は流域内で排出され、水域に直接流入するものであるが、例えば小矢部川下流（甲）水域には、そのような負荷のほか上流や千保川からの負荷も流入しており、水質に寄与している。このことも考慮した記載とする必要があるのではないか。

[事務局]

資料には、流域の特性が分かるように、流域内で排出された負荷量（排出負荷量）を記載しているが、将来水質の予測に当たっては、上流や支川からの流出負荷量も勘案している。

[専門員]

千保川で冬に測定値が高くなることがある原因として、ある特定の事業場の影響が大きいことが考えられるが、今後どのように指導していくのか。

[事務局]

流量の少ない冬に一時的に水質が高くなるものについても、しっかりと検討する必要がある。相手方には、しっかりと話をして、必要な指導をしてまいりたい。

○ 小矢部川の水域類型の見直しについては、事務局案のとおり了承された。

(5) 神通川の水域類型の見直しについて

[専門員]

富岩運河と松川への導水は、今後はどうなっていくのか。例えば、渇水期に導水量を制限する必要や、ほかの取水量の変化により導水量が変わることなどは考えられないのか。

[事務局]

松川は神通川の支川から 2 m<sup>3</sup>/s、富岩運河はたち川から最大 1 m<sup>3</sup>/s 導水されており、特にこれを変更、廃止する計画はない。

また、導水量はそれほど大きくないので、今後もこれらの水量は確保できると考える。

[専門員]

富山市の下水処理水はどこに放流されているのか。河川ではないのか。

[事務局]

富山市の神通川右岸においては、富山市の公共下水道の浜黒崎処理区に該当し、海域に放流されている。また、神通川左岸側においては、県の神通川左岸流域下水道が整備されてお

り、こちらも海域に放流されている。

[専門員]

見直しの理由も報告書に記載するのか。

[事務局]

見直しの理由も県民にとって必要な情報と考えており、報告書に記載する。

[専門員]

いたち川の水質はA類型相当になっているが、B類型に見直す。富岩運河の水質はB類型相当になっているが、D類型に見直す。見直し案からは水質があまり良くないイメージを受ける。水質は良くなっているが、「1つだけ上位の」類型に見直すことを報告書に記載した方がよいのではないか。

[事務局]

書きぶりについては検討する。

[専門員]

報告書に水質の観測条件等を記載した方がよいのではないか。

[事務局]

観測は、環境省の「水質調査方法」に基づいている旨を記載するとともに、1か月ごとに観測していることも併せて記載したい。

また、報告書として、詳細なデータをどこまで掲載するのかという問題もある。これも含めて、次回の専門部会でご相談させていただきたい。

[専門員]

富山市、高岡市には合流式下水道があり、両市ともに合流改善事業を進めているが、まだ、降雨時には松川に汚水が放流されている。富山市の事業や住民感情等とのギャップが懸念されるが、どうか。

[事務局]

クリーンウォーター計画に合流式下水道対策を進めていくことを記載している。都市としての難しい面もあるが、改善事業をしっかりと推進し、松川については、1つ上位の類型に見直すこととしたい。

○ 神通川の水域類型の見直しについては、事務局案のとおり了承された。

以上、議事内容に相違ありません。

富山県環境審議会水環境専門部会長 安田 郁子